

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

事業所名	みはらしの丘		
開催日時	令和8年2月19日 13:30~15:15		
開催場所	法人本部棟2階会議室		
出席者	構成員	人数	備考
	事業所職員	5名	管理者、課長、サービス管理責任者
	入居者	1名	
	入居者ご家族	1名	
	地域の関係者	1名	民生児童委員
	福祉・経営に知見を有する方	1名	市内生活介護事業所管理者
	市町村担当職員	1名	市障がい福祉課職員
会議概要・議題	<p>目的：入所施設の運営状況、支援の現状と課題について地域関係者と共有し、今後の支援の質向上につなげること</p> <p>内容：1. 事業説明 ①事業所・法人の概要説明 ②利用者支援の現状と工夫 ③地域・相談支援・行政との連携 ④事業所・法人の課題等 ⑤その他 2. 意見交換 3. 施設見学</p>		
議内容・意見等	<p>① 事業所・法人の概要説明</p> <p>【委員からの質問】</p> <p>入所施設やグループホーム日頃の生活の様子について、実際に利用されている方、ご家族はどのように感じているか。また、地域の中でどのような存在として位置づけられているのか。</p> <p>ご家族からは、「一人ひとりの特性やこだわりに合わせて対応をしてもらっている」との評価をいただいている。本人が落ち着いて生活できており、家族としても安心して任せられるとの声があった。</p> <p>【法人側の回答】</p> <p>グループホームについては、特別に目立つ看板等を掲げるのではなく、地域の中で自然に生活の一員として溶け込む形をとっている。大規模アパートの一室を活用するなど、地域住民と変わらない生活形態を意識している場合もある。一方で、地域とのつながりを考</p>		

えると、事業所としての存在を適切に示すことも必要であり、そのバランスを模索している。

② 利用者支援の現状と工夫

【委員からの質問】

健康管理や医療体制はどのように整えられているか。緊急時の対応はどうなっているか。

【法人側の回答】

健康診断やレントゲン検査等は定期的実施している。月1回の往診医との契約、精神科医療機関との連携体制も整えている。また、三島市の歯科医師会グループが訪問歯科診療を実施しており、通院が難しい利用者にも対応可能である。

緊急時には直ちに消防署へ連絡し救急搬送を要請するよう職員へ周知徹底している。

【委員からの質問】

支援計画はどのように作成・運用されているのか。

【法人側の回答】

半年に一度、個別支援計画を見直している。これは利用者一人ひとりの「暮らしの設計図」となるもので、本人・家族・関係職員が参加する会議で策定する。

アセスメント面談を通じて、好きなこと・苦手なこと・生活上の課題を把握し、支援目標を設定する。モニタリングにより実施状況を振り返り、再度計画に反映させるPDCAサイクルを回している。

強度行動障害のある方については、特別な支援手順書を作成している。入所者の約3分の2が対象となっており、計画作成には1件あたり1時間半程度を要する。職員会議は日常的に実施されているが、会議負担の増大が課題である。

③ 地域・相談支援・行政との連携

【委員からの質問】

地域や他機関との連携状況について教えてほしい。

【法人側の回答】

主治医（山口医師）をはじめ、総合病院、精神科病院と協力体制を構築している。

相談支援については、法人内の相談支援事業所に加え、市設置の基幹相談支援事業所とも連携している。三島市の基幹相談支援の取り組みは県内でも評価が高く、県の場での発表実績もある。

また、「三島市障がいと暮らしを支える協議会（自立支援協議会）」とも連携している。

地域貢献として、トイレトペーパーの納品、マイクロバス貸出、絵画活動の普及なども行っている。ただし、法人としては「地域とのつながりはまだ十分とは言えない」と自己評価しており、今後の強化が課題である。

④ 事業所・法人の課題等

【委員からの質問】

現在の課題について具体的に教えてほしい。

【法人側の回答】

1. 利用者の高齢化・重度化

身体機能低下、転倒、骨折などにより急激にADLが低下するケースが増えている。リハビリや個別的な体力維持支援が十分にできていない点は課題である。

2. 人材確保・育成

24時間365日体制であるため、若年層の確保が困難である。特に女性職員の確保が難しく、外国人材の採用も進めている。

研修は少人数・小刻み方式で実施している。

3. 虐待防止への対応

福祉分野では虐待の基準が厳格化している。職員の疲労や感情のコントロール困難が背景にある事例も存在する。

年間2~4件程度、市へ通報している。隠蔽せず外部へ報告する姿勢を貫いているが、職員の精神的負担は大きい。

4. 経営状況

入所部門は黒字だが、通所部門は赤字。物価高騰・人件費上昇の影響を受けており、将来的な経営リスクを慎重に検討している。

5. 事業継続計画（BCP）

感染症や災害時でも事業を継続する体制整備を進めている。

インフルエンザやコロナのクラスター発生時には職員不足が深刻化する。大雪時にも職員が泊まり込み対応を行った。

6. 第三者評価

義務ではないが継続受審している。費用と労力がかかるが、透明性確保と改善のために実施している。

⑤ その他（委員からの意見・感想）

複数の委員より以下の意見があった。

- 大規模組織でこれだけの運営をしていることは大変な努力である。
- 虐待事案を隠さず公開する姿勢は信頼につながる。
- 人材不足はどの法人でも課題であり、職員の安心感を守ることが利用者支援の質向上につながる。
- 小規模事業所でも同様の悩みを抱えており、今後も学び合いたい。

閉会

座長より、長時間にわたる参加への謝意が述べられ、会議の終了が宣言された。

以上をもって、地域連携推進会議を終了した。

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

事業所名	みはらしの丘		
開催日時	令和8年2月19日 15:15~16:00		
開催場所	みはらしの丘		
出席者	構成員	人数	備考
	事業所職員	5名	管理者、課長、サービス管理責任者
	入居者	1名	
	入居者ご家族	1名	
	地域の関係者	1名	民生児童委員
	福祉・経営に知見を有する方	1名	市内生活介護事業所管理者
	市町村担当職員	1名	市障がい福祉課職員
見学時の説明・感想等	<p>委員による施設見学を実施し、職員の案内のもと施設内の各設備や利用者の活動状況について説明を行った。見学の過程で、委員と職員の間で以下のようなやり取りが行われた。</p> <p>まず2階フロアの見学では、廊下や共有スペースの様子を見た委員より「とてもきれいにされていますね」との声があり、施設内の環境整備について感想が述べられた。これに対し職員より、2階吹き抜け部分に設置している柵について、安全確保の観点から転落防止対策として設置しているものである旨を説明した。</p> <p>委員からは「なるほど、そういう理由なのですね」と理解を示され、「見た目も特に違和感はありませんね」との意見があった。</p> <p>また、居室の配置や後年増築された部分の構造についても説明を行い、利用者の生活環境について紹介した。</p> <p>続いて1階フロアの見学では、プレイルームを案内し、職員より利用者が絵画や創作活動、軽運動等の活動を行っていることを説明した。</p> <p>また、ペットボトルキャップを用いた作品制作の取り組みについて紹介し、完成した作品が地域の店舗等に展示されていることを説明した。</p> <p>委員は利用者の作品を見ながら「とても上手ですね」と感心される様子があり、作品が市内の店舗に飾られていることについて「こちらで作られていたのですね」と関心を示された。</p> <p>また施設内の採光についても「施設の中がとても明るいですね」「日差しがよく入りますね」との感想が述べられた。</p> <p>食堂の見学では、職員より食事提供体制について説明を行い、食事は委託業者による調理であること、また利用者の嚥下状況や健康状態に応じて食形態を調整していることなどを説明した。</p> <p>委員からは、食堂から見える景観について「とても見晴らしが良いですね」「施設の名前の通りですね」といった感想が述べられ、施設環境について理解を深めていただく機会となった。</p>		

以上のように、委員による施設見学を通じて、施設設備や利用者の日常活動、支援環境について説明を行い、施設運営に対する理解を深めていただいた。